

座長コラム「長岡の風」

第17回 2025年4月

トランプで大損という

長岡経済・産業連携会議 座長：高野裕

①おかしなこと

今日の会議は転勤で着任まもないメンバーが多くいた。そこで、皆さん自己紹介がてらいろいろな話をしていただいた。ちょうどトランプ政権の関税政策で株価が大きく上下しているニュースが連日流れている時期なので、そんなことに掛けて話されるメンバーもいた。「NISA（少額投資非課税制度）を始めたのに、株価が大幅に下落して大損をして家内に恨まれた」というような内容だ。このような口調の会話はニュース番組のインタビューの中でも取り上げられている。私は「おかしなことをいっているなあ」と思いながら聞いている。

②それは違うでしょう

別な会合である人は、「少し株でも買って勉強しようと思ったので、昨年トヨタの株を買ったのに、トランプのおかげで大幅に値下がりしてしまい大損をした。やはり慣れないことをするものではないと思った」という。これもまたおかしなことをいっていると思いながら聞いている。大損という意味を心理的意味で「損をしたような気がする」というのであれば、それはわかる。しかし、実際に持株を慌てて売却してしまったというなら損失が確定するだろうが、まだ売却していないなら損は実現していないから損失を被ったといういい方、「それは違うでしょう」といいたくなる。

③ニュースも

話を盛ったものにする意味で、「株で大損をした」というのは仲間内の話としてはありうるが、テレビのニュース番組を見ても、「トランプのおかげで損をした」というような口調のインタビューを、株価が大幅に値下がりしたニュースと一緒に流されると、ニュースのとらえ方もおかしいと思いながら聞いている。

④それはホントか

そもそも、株価はその会社の未来期待度なのだ。あなたの株式購入目的が将来に対する「投資」なのか、目先の利益を目的とした「投機」なのか。毎日パソコンにしがみついて、1分毎に売ったり買ったりをするようなトレーダー取引をするなら、それは「投機」、しかし通常は将来の資産形成のために「投資」を行っているから、株価が乱高下したからといって売り買いをしない。通常の個人が「トランプのおかげで大損をした」などと話をするのを聞いていると、ホントなのかと思いたくなる。

⑤決して損はしていない

もし、あなたがドル・コスト平均法で毎月一定の金額を購入に回しているなら、株価が下がったことで多くの株数を購入するチャンスがやってきたということになる。これはチャンスなのだ。購入する銘柄にもよるが、将来が期待できる会社なら株価が下がったことはチャンスなのだ。たとえ株価が下がっても、その会社の一株当たりの配当金が変わらなければ、株数が増えてより多くの配当金が入ることになる。決して損はしていない。